

2008年度 第86回 関西学生サッカーリーグ（第1節）

4/5（土） 鶴見緑地球技場

第1試合 大阪学院大学 vs 大阪教育大学

昨春秋の王者・大院大と3年ぶりに1部復帰した大教大が開会式直後の試合で激突した。前半大院大は優勢ながらも大教大の粘りの前に先制できなかった。後半早々FW 23山根雄太がDFの一瞬のスキについて均衡を破ると、後半19分には新人FW 60小野真国がラッキーな追加点を決めた。前半でMF⑧新田一馬を負傷で失い「バランスが狂った（大教大・入口豊監督）」という大教大はペースを奪い返せず、後半27分PKのチャンスも失敗、流れを変えられない。そして後半39分、MF⑧深作真也のCKを先制点で気をよくした山根がファーポスト、角度のない位置からヘッドでダメ押し、3点差をつけ試合を決めた。

大院大・藤原義三監督は練習試合での失点増から、急遽FW起用していた⑨岡村和哉をDFに戻し、Bチームから引き上げた急成長の山根を前線に抜擢した。テストできたのは1試合だけだったが、この緊急対策が山根の2得点、そして無失点と最良の結果をもたらした。藤原監督は「内容は悪いが勝利が一番の自信になる」と笑顔。敗れた入口監督は「自滅。力不足。終盤にかさにかかるところはさすが1部」と落胆しながらも相手をたたえていた。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

大院大 3 { 0-0 } 0 大教大

得点
48分 山根
64分 小野（西ヶ浦）
84分 山根（深作）

第2試合 関西大学 vs 立命館大学

「2部暮らし」を最短期間で終えた立命大が昨秋2位の関西大に挑んだ。ケガ人続出で本来の2トップを欠く関西大だったが「誰が出ても関係ない（主将MF21大屋翼）」本来のスタイルである丁寧なパスワークで、FWの運動量とスピードを活かす狙い。しかし立命大はDF⑤畑尚行を中心に固く守りシュートを打たせない。そして迎えた前半25分、関西大はMF⑩佐藤悠希のクロスを受けた大屋が鮮やかなボールコントロールから左足ボレーを叩き込んだ。その後も攻める関西大、守る立命大という構図は崩れず前半は1-0。

後半、互角の展開といえたのは10分間ほど。その後関西大がボールキープで立命大を圧倒し攻め立てた。しかし、ラストパス、シュートの精度がまずく2点目が遠い。耐え続けた立命大にチャンスが訪れたのは後半33分。交代出場の新人FW 36伊藤了がFW⑦宮尾勇輝のパスからゴール、同点とした。元気づいた立命大はあわや逆転かというチャンスもつかみ関西大をあわてさせたが、スコアはそのまま動かなかった。「勝ちきれなかった」と悔やんだ大屋主将、「追いついての引き分けが自信になれば」と前向きな立命大・米田隆監督。対照的な二人だった。

（文：サッカーライター 貞永 晃二）

関西大 1 { 1-0 } 1 立命大

得点
25分 大屋（佐藤）
78分 伊藤（宮尾）



写真提供：立命スポーツ

4/6（日） 大阪長居スタジアム

第1試合 同志社大学 vs 京都産業大学

同大がバランスのいい攻守で京産大を圧倒して好スタートを切った。前半16分、DFの裏を付いてMF⑭北森陽介が先制、後半5分には左右に展開してMF⑩荒堀謙次が2点目、と前後半の早い時点で得点がプレーヤーを楽にさせた。

同大は森本、永戸のセンターバックがDF陣を安定させ、MF⑩楠神順平を核とした攻撃陣が奔放に動けたことも大きい。特に林佳祐が再三攻撃の発火点役を果たし、楠神、荒堀らの的確なサポートもあった左サイドの攻撃、楠神のドリブル突破などは魅力タップリで見るべきものがある。運動量とスピード、激しいポジションチェンジ、長短織り交ぜたパスワークなど全体の底上げが来ている。

京産大は「MF馬場をボランチからセンターにもってきたのは成功。彼がいなければもっとやられた」というが、反面中盤が手薄になった。そのために同大の速さと動きに対応するのに精一杯。攻めの拠点も不在で、持ち味のカウンターが不発状態。チャンスらしいチャンスも作れずに終わった。

（文：関西学連）

同大 2 { 1-0 } 0 京産大

得点
16分 北森（荒堀）
50分 荒堀

第2試合 桃山学院大学 vs 姫路獨協大学

桃山大 2 { 0-0 } 0 姫獨大

得点

54分 岡田

73分 船津 (辻)

初の1部昇格で金星を狙う姫獨大の意気込み、桃山大が苦しんだ。姫獨大が立ち上がり前半11分ごろまでの決定的ともいえる3度のチャンスを、不運と桃山大の好守で阻まれていなければ、ゲームの展開はどうなっていたか。それにしても姫獨大にはフレッシュな勢いがあつた。桃山大の展開の幅が狭く、局地戦的なゲーム運び、相手に合わせる運びになりがちだったことも、姫獨大に付け込まれる原因を作っていたともいえる。

しかし苦しみながらも桃山大は、そのピンチ以降は前線からのプレッシング、正確なチェックで姫獨大を自由にさせなかったのはさすが。その辛抱が後半9分、MF⑥岡田翔太郎の豪快なミドルシュートの先制点、28分の速さを伴ったダメ押し点になって実った。

姫獨大は初の1部でのゲームにしては善戦したと言っているのではないのか。運動量は十分あるし、個々の技術も悪くはない。後は1部での慣れだろう。攻めの組み立て、守りの忠実さとバランス、それはこれからの課題だが、とにかく桃山大を50分近く苦しめたことだけは評価している。

(文:関西学連)

4/6 (日) 鶴見緑地球技場

第1試合 びわこ成蹊スポーツ大学 vs 近畿大学

接戦を制したのはびわこ大だった。

試合開始早々、近畿大にアクシデントが起きた。DF 22 松原優吉がファウルを取られ、一発退場。残り時間、10人での戦いを余儀なくされる。2トップの一角を担っていたFW⑬小笠原宏樹をサイドバックに下げ、急造ラインが相手の攻撃をおさえ、前半を0-0で終える。

試合が動いたのは後半11分。びわこ大はFKのチャンスを生かし、FW29安本真哉があげたボールにDF⑬山田尚幸が合わせ、待望の先制点を決める。後半30分には近畿大が選手交代直後の一瞬の隙を狙い、中央突破したMF⑭北井佑季からゴール前にパスを送り、MF⑦枝本雄一郎がフリーでシュート。ようやく同点に追いつく。しかし試合終了間際、交代で入ったMF⑦小池遼のクロスを中央でFW 25 篠部拓真が決め、2-1でびわこ大が開幕戦を勝利で収めた。

次節、近畿大は松原を次節出場停止で欠き、守備ラインの建て直しが試される。初戦を白星で飾ったびわこ大はこの好調を維持できるか。第2節、両者の戦いに注目したい。

(文:フリーライター 久住 真穂)

びわこ大 2 { 0-0 } 1 近畿大

得点

56分 山田 (安本)

85分 篠部 (小池)

得点

75分 枝本 (北井)

関学大 0 { 0-0 } 0 阪南大

第2試合 関西学院大学 vs 阪南大学

「勝ちたかった。」阪南大の中濱雅之は試合後、悔しさをにじませた。加茂サッカーの申し子・関学大と、昨年二度の入替戦に苦しんだ阪南大の対決は痛い引き分けとなった。

前半13分、関学大はMF28阿部浩之がフリーキックを浴びせ、セットプレーの強さを見せ付けるが、惜しくもGKに阻まれる。一方、阪南大は関西選抜のMF⑦小寺優輝、FW⑪木原正和を中心に中盤から攻撃を展開していくがシュートまで持ち込めない。両者ともに守備は安定しているものの、攻撃の糸口をつかめないまま前半を終える。

後半13分には流れの中から関学大・MF⑩小関佑典が豪快なシュートを放つが、GK竹重安希彦がスーパーセーブ。その後も関学大は再三に渡るセットプレーの好機を決めることができない。阪南大も最後は縦パスに頼り、けがで戦線離脱したエース西田剛の穴を埋めることができず、スコアレスドローで試合終了。攻撃に課題が残る開幕戦は、互いに勝ち点1を分け合った。

(文:フリーライター 久住 真穂)